

## 2 学期始業式

校長 栃倉 和則

皆さんご存じかと思いますが、トイレの改修工事が進んでいます。今年は、B棟、来年はA棟、再来年はC棟と、夏休みに大きな音が出る工事を中心に、3年間かけて行います。この夏は2、3年生の自転車置き場側のタイルの張り替え工事も完了しました。引き続きC棟の工事も予定されています。工事期間中、不便をおかけしますが、工事完了後の快適な環境を夢見て、我慢していただければと思います。

さて、夏休みの学習は捗りましたか？計画通りに行かなかった人も多いかもしれません。そもそも夏休みが万能だと考えること自体がおかしいのかもしれませんが。時間は無限にあるわけではありません。できることをコツコツとやっていくほかないのだと思います。

ねえクララ！夏休みだけど、ちゃんと勉強してる？

ぜんぜんしてない

あはは。そっかー。

絶対やってるよ。

とまあ、みなさん見たことがあると思いますが、これではいけませんね。抜け駆けはダメとばかりに、お互いに足を引っ張りあっているだけです。

有名なウサギと亀のお話し。イソップ寓話にも収められています。ウサギが負けたのは、油断したからですが、油断していたのは亀を見ていたからです。一方、亀は？

亀はゴールだけを見てコツコツとやっていたのです。これが勝因です。お話の中での相手はウサギでしたが、亀にとって相手は何でもよかったのです。なぜなら、亀は一度も相手を見ていないからです。亀はゴール、目標だけを見つめて歩き続けたわけです。

つまり、この寓話のもつ意味は、人と比べたりすることなく、目標に向けて着実に努力しなさい、ということなのでしょう。

あなたの競争相手は誰ですか？もしかしたら、ついつい怠けてしまう自分自身かもしれません。足の引っ張り合いをするのではなく、お互いに高めあう関係を築きましょう。受験は団体戦です。

日経新聞に8月15日から5回に渡って「漂流する大学入試」という題のコラムが連載されました。かねがね言われている入試改革についてです。このことに関わって、情報を共有し、考え方のヒントを示しておきたいと思います。

第1回は、「偏差値時代終幕の足音」と題されていました。これまで大学受験が「受験地獄」と言われていた頃から長きに渡って知識偏重主義とも言える教育が行われていました。何十倍もの難関を通り抜けるためには、一点を争うわけで、当然、重箱の隅をつつくような難問も出題され、隅々まで網羅する必要があったのです。その結果、得た知識によって学歴を手に入れ、就職も、結婚も、出世もなどと結びついていたのかもしれませんが。

しかし、18歳人口が減少する今、偏差値による序列化の時代が終わろうとしているという主旨です。大学全体で推薦型選抜と総合型選抜を合わせて50%を超えた。これでは、一般入試の難易度を示す偏差値が意味を失うのではないだろうかということを行っています。もう一つの理由は、学力観の変化であると考えます。確かに学力は偏差値だけではないし、教室の勉強だけでもない、求められるのは学力よりも活力、生きる力などと言われてきました。

これは以前お話をしたことがあります。スマホの時代になった。いつでも、だれでも、手のひらの中で、瞬時に調べ物をするができるようになった。これまでの"walking dictionary"「生き字引」(なんでも知っている人)は近い将来、死語になるかもしれません。なんでも瞬時に検索できる。誰もが当たり前前に知識を持つことができる。知識を持っているだけではダメで、情報を見極め、それを活用することが求められる。これが現在の考え方で、社会の動きと連動しているわけですね。

すでに皆さんご存じのとおり、今年の一年生(77期生)から新しい教育課程が進められています。大学のカリキュラム改革と、高校と大学のつなぎ目となる大学入試の改革という三本を柱として高大接続改革が進められました。民間テストの導入は見送られましたが、2025年度から共通テストも変わります。6教科30科目から7教科21科目へという大きな変更です。現2年生が浪人しない方がよいという意見は、このことが理由です。

大学のカリキュラムも変わっていきますが、これから求められる力とは、知っているということ「知識」、何ができるようになるか「技能」、自分で考え「思考」、自分で「判断」し、まとめる「表現」、何を、どのように学ぶのか「学びに向かう力」・・・

特にこの3点目は自主・自律に結び付いていると思いませんか。1年生は通知表を見てお判りだと思いますが、こういった3つの観点ですでに評価されているわけです。

このようなことを背景に、探究型の学びが求められています。自らの経験によって、課題を設定し、どのようにすれば、その課題が解決できるのか、見通しを明らかにした上で、方法を定め、解決のために必要な情報を収集、整理、分析した上で、その結果、わかったことをまとめるという研究のプロセスを取ります。まさに、大学で行う研究と同じです。

日経によれば、学校の存在意義が問われるとしていました。志望理由書の書き方や面接練習など、総合型選抜に向けた対策を取り始めた予備校、予備校講師を招聘して「校内予備校」を開く高校なども現れています。

私は、学校とは、授業、特別活動（学校行事、委員会）、部活動など、あらゆる場面で、お互いが人間関係を構築し、切磋琢磨する場だと考えています。成果は数値で測れるものばかりではありません。

変化する学力観、これから求められる力を意識して取り組んで行くことが大切だという話です。3年生はもとより、2年生もこれまでどおりのことを地道にコツコツとやっていくしかありません。1学期の終業式で視点の話をしましたが、魚の目で流れをつかみ、鳥の目で全体を俯瞰し、虫の目で精緻なものを見る…日々の学習の中で、そんな力を身に付けてください。

秋の雲が見られるようになりました。2学期の始まりです。記念祭、想像力を発揮してください。続く体育祭、みなさんの躍動を期待しています。

それでは。 *Touch the Sky!*